



自衛隊栃木地方協力本部

じ

女子高と

自衛隊が

広報で連携

自衛隊栃木地方協力本部宇都宮分室（分室長 鈴木一陸尉）は宇都宮市内に所在する宇都宮文星女子高等学校（秀英特進科美術デザインコース）と連携して自衛隊の広報活動を実施している。同校生が制作した段ボール製の戦闘機や戦車の模型、自衛隊のあるあるネタを題材にした「自衛隊あるあるカルタ」などを栃木地本の広報イベントで展示し、人気を集めている。

同校との交流は約2年前に、宇都宮分室が航空自衛隊百里基地を案内したことから始まった。参加した生徒が見学の様子をまとめたパネルを制作し、それを担当広報官が市内の広報掲示板に掲示したことがきっかけとなった。今では自衛官採用チラシや募集看板、名刺作成など募集対象者を引き付けるデザイン等のアドバイスを受けている。

「自衛隊あるあるカルタ」の題材は、知り合いの自衛官や宇都宮分室の広報官から聞いたエピソードが中心となっている。「のびる雲 華麗な演技 ブルーインパルス」や、富士地区での演習を表現した「富士山は『もう見たくない』と父が言い」といったユーモラスな読み札もある。絵札は国宝「鳥獣戯画」風のタッチで描いており、陸上自衛隊をウサギ、海上自衛隊をカエル、航空自衛隊をキツネに例えて表現している。

なお、作成に携わった令和2年度卒業生のうち、1名が自衛官候補生として女性自衛官教育隊に入隊し、現在は富士駐屯地において新隊員後期教育を受けている。

宇都宮分室は「コロナ禍においても実施可能な広報活動を行い、自衛隊に対する理解と関心を深めていく」として取り組んでいる。



宇都宮駅で市街地広報

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶一陸佐）は7月15日、JR宇都宮駅などにおいて市街地広報を実施した。

これは令和4年3月に高校を卒業する生徒等への募集解禁に合わせて、街頭で自衛官採用リーフレット等を配り、採用試験の日程や自衛隊の職種について広く案内することを目的としている。

当日は朝の通学時間帯に、JR宇都宮駅西口、東武宇都宮駅構内、栃木地本前のさくら通り交差点の3か所において本部長、副本部長をはじめ栃木地本の隊員が、ソシヤルディスタンスに細心の注意を払い、リーフレットやマスク、ティッシュのセットを配布した。通学客の中には迷彩服姿に気づいて笑顔で受け取る人の姿も見られ、「写真を撮ってもいいですか」という人や「後日、詳しく話を聞きたい」といった声も聞かれた。

栃木地本は「今後も市街地広報等の機会を活用して、自衛官募集について積極的に案内していく」としている。

